

田宮さんと此の間から相談したら荒井宅の訪問、今日にしようという事になって居たが、私は晝に退けても彼女は内科でまだだ。電話を二つかける。家では久し振りで聞く母の声。

何、又体の具合が悪いんだって。父がお勝手、だが洗濯物がたまってる。

あの声を聞き乍ら、どうして直ぐ行くと云はないで夕方になってからと云ったんだろう、又私のいやなくせの一つだ。

もうそれから落着かなくなった。

まだ退けない彼女に訳を話して早速歸り支度。途中御徒町で降りて前で蜜柑と父のリンゴを買う。少し大きな包みになって気がひけるが楽しみでもある。

二時過ぎいたが母は炬燵に居る。幾らか安心したが、昨日迄の具合を聞くと少し心配だ。

父は少し肉がついたようだ。

顔なんて直ぐ環境に依って違ってくるものだ、恐しい。兄は相変わらずとか、もう彼女は退院して、家えも遊びに来た由。父と母の話を聞いてると兄に對して少し不満になってくるのをどうしようもない。

息子に世話になって乍ら世話をして貰えない父と母。保ちゃんが兄弟だったら、又私が男だったら何とかして上げられるのに。こんな事考えても仕方がないが、或は、保ちゃんと私が家に居て母達の面倒を見るのが一番好いのかも知れないが、まゝにならぬは浮世の習い。

私は二重の苦しみだ。

夜は私と母のこしらえたシチューがおいしかった。たまに家の台所に立ってまごまごして了う私、母は御飯は炊けるかと心配する。笑う。

昔取ったキネヅカではないがうまいもんさ、だけど暫くやらないので自信不足。

私があの手を話して以来、母は優しくなったようだ。併し母の性質を知ってゐる私は母の強い心を知る。いつか爆発しなけりゃよいが。父と保ちゃんが湯に行った後、母色々の事を聞く。此の頃比較的平和な私の母に對する気持。

父は向うでお客に来たようだと云って寝る。且つては背を向け合って遠慮しいしい、話声も小さく、横になった私。

しみじみと隣に寝た妹の健康な体を思い出す。

寝様悪くして父になおされてた可愛い妹。いつもなら蒲団を被って了うのに、今日は家だから、母の嫌いな行動は慎まなければならぬ。

朝も蒲団の中で着物は着替えない。

シュミーズにシャツの私を見て、父も母も寒くないかと問う。変れば変わるもの哉と両側で思う。

上衣着ずに白ブラウス丈(\*だけ)で用意の三角巾を被って掃除に取り掛る。

今日も昨日に変わらず風が強い。

洗濯はしようかと云ってもいゝよ後でぼつぼつ出来るからとやらせない。

まだ昔に変わらず洗濯には信用がないらしい。私ももう大人なのに可笑しくなる。朝飯終ったのは十二時過ぎ、又兄と会えなかった。

母が節ちゃんが会いたがってゐるからと私を連れて行きたがる。嬉しいやらこわいやらで母に毘んで連れられて行く。

達者な足、亀戸なんて此んな近かったかしら。田宮さんは電話では不足そうな声だったが山口さんか誰かと帝劇の映画に行つたらう。

母と二人で外出するなんて正に何年振りだろう。果林糖を百円。いぶせき家に親子五人とは相成つた通称センタク屋の一族、節ちゃんの大きくなった事、うそみたい。栄ちゃんは少し年の割に足りないみたいだ。

節ちゃんを見たら急に涙がこみ上げて来て何か云はれても何も云えない。母も、小母さんも見て見ないふりしてる。

小父さんも母の言葉に甘えて好い機嫌になりそうだ。焼芋のおいしいこと。

節ちゃんは女の子らしく優しく素直に恥かしそうだ。小母さんがたのもしそうだ。

学校の成績は優秀とか、節ちゃんは実にたのもしい。自分の事のように嬉しい。

来年は中学卒業して私のとこえ来るといふ。でも考えものだ。

二時過、辞す。皆送つて来た。

相変らず人の好い小母さん。電車に乗る迄見送つた三人。栄ちゃんはどこへ行つたか。混んだ電車で母が小さい。

錦糸町で母は降りた。私は其の儘須田町迄。寄道せず歸院すると田宮さんはまだ歸つてない。三時半随分早かった。電話で六時頃行こうなんて云わなきゃよかった。

山口さんとかえもぐると彼女ふんがいて私に話した。彼女が御飯炊いてくれて二人で食べた。話して眠りかけた時田宮さん歸つて来た。お腹が空いて疲れたという彼女に、沼館さんに貰つたお稲荷さんを上げ、山口さんにまんじゅう上げてお部屋の人に笑はれ乍ら急ぎ支度してするめを噛み噛みバス迄歩く。もう七時だ、変かな。辛いな。

今日は何もかまわず来た。

何しろ田宮さんの歸りが遅いと怒つて居たのにもう私は機嫌よくなつてゐる。

もう皆寝る用意してた。

小父さんは矢張り当つたらしい、私達が来ると。小母さんはずっと悪くて寝て居るとか。今日はいつもの豆はなく、みかん、ドーナツで歓待される。

火鉢に向き合つて上の妹君がいやに私の方をみる。

家で少し汚して了つたブラウスの衿が気になる。細い目でいやに人の方を見るなあ、それに今日は顔も洗つて来ないであわてゝたので、いやな気がした。

小父さんの荒れた手を見て、父の炊事をやっていると、久し振りでお風呂に行つてこすり過ぎ額にかすり傷する迄になつて、母に乳液をぬつて貰つてゐた顔を思い出した。

九時頃辞す、田宮さん久し振りなので張り切つて話してた。

じつと聞いている、私の方を見てた妹君の顔が、歸りの途々でも私の頭をかすめて気になつた。

お部屋の人にお土産に貰つて来たドーナツを上げる。岩渕さんの顔、沼館さんの顔、節分もとうとう家で過ごせなかつた。

去年も一昨年も、いやいやもつと其の前も。

節ちゃんの事考える。大きい姉ちゃん……

(\*自分が「大きい姉ちゃん」と呼ばれて、小さい姉ちゃん「亡き妹が偲ばれる

一時に退けて此の間の事もあるので家え行く。一週間なんて早いものだ。居眠してたら日本橋迄連れてかれて了った。引返して三越え入る。

もう舞台美術展は終つて了つて、なく、雛人形の陳列をみる。優雅な人形、桃山人形、踊人形、目を楽しませる。私はどこ迄色彩を好むのだろう。

食料品の方は大した繁昌ぶりで相変らず買ひもせず珍らしく見て歩く丈

高島屋、日舞展、結構楽しく見られた。こういうものを見ることに依つて僅かに自分を慰めてゐる可哀そうな私。

私は平和な時代に生れる筈だつたのだから。そうすれば……

うぬぼれか、誇大妄想狂か、

変な、自分を背負う所がある。

閉店間際迄ゆっくり見る。

石けん、チョコレート、ストッキング、帯など思い切つて買つて了った。気持好い。

小雨ちらちら、止んだばかりの街頭を何の考えもなく歩く。

家え夕方着いた、父一人。卯坂蒸が火鉢にかゝつて母は見えなかつた。

兄が来た。幾日振りで顔を合はせるのだから。立派になつたと思つた。

かっこうが附いて来た。今更乍ら、或所だけ兄貴は偉いと思う。

母が、私の事を見間違えて障子を開けた。又母の好きなカツレツか。

少しはビタミンをとればよいのに。又ニキビが出来るのに。

少しづつ上げて上げようか、フ、フ、

兄は呉（廣島）え一週間ばかり出張とか。色々話して又縁起の悪い年寄の気にするような

心細い事を云う。

これも兄のいやなくせの一つ了いに私の事を云い出した。私は何て意気地なしなんだろう、

面と向うと何にも云えない。思う事の一つも云えなくて只涙が一杯目にたまつて其れをか

くすのに精一杯だ。

目にした新聞で顔をかくし乍ら兄の云う事や母の言葉は何も云えずに聞いている情ない私。

之も私の口惜しいくせ。

涙もろい女はうそ吐きだなんて。

兄の話を嬉しいやら悲しいやら聞き乍ら、剛さんに話し度いと思う。

兄はもう暫く家え歸れないと云うのに、あっさり出て行つて了つて後はぼんやり、保ちゃんはおそい。

母は湯に行つて父と二人黙つて本を読んで居たが湯タンポ入れて蒲団敷き始める。私も考

えなしに父の云う儘に敷いて了つたら母が歸つて来て機嫌悪し。

いつも月夜ではない世の中。

妹と違つて私はこういう時どうする事も出来ない。小さくなり乍ら電気を消して（今日は）

寝る。

今日来て泊つた事を色々考える。

火曜日に電話かけておいた。

オフの吉田さんと替って貰って四時頃退けて出掛ける。

一月振りだと云うがそんな気がしない。さぞ待ったであろう。

何だか向うの気持が高くなると比例して私は低くなる。何時逢っても感じる事が今夜もしきりに感じられて、了いには自分もいやになって了う。

映画は二度見たかったが其の心にあらずとみて一回で出た。頭上の敵機（\*アメリカの戦争映画）

離れてる間でも、休みの時など何処かしらに出掛けてる私はそうでもないが、いつもギタ―と仕事ばかりいぢってる彼は退屈なのだろう。

模型飛行機出来たとか。

頭が良いのに惜しいと思う。あまりに純情過ぎて子供みたいだ。

もっと落着きのある話し方がして欲しい。欠点の目につくのは深く愛してない証こだ。あばたもえくぼになれない。思いつた私、私も世の通俗の、私の身の廻りにゐる年頃の人達と同じ女なのか、又違ってゐるのか。

恥かしいような、情ないような。又誇張しても良いような感情の錯そうした頭の中。それでつい、情ないと思う話もして了った。

物事をたゞ、正、不正で片附ける單純な人。

私が複雑過ぎるのかも知れない。

併し何も知らない。只暖かい小さい家庭に育った人。

私の心を満してくれる人はいないのか。

そんな事を云えば自分は何だと又自省する。結婚は愛情のみで出来る事ではない。

一生ブレで過ごすのかと私には皮肉に聞えた彼の質問、

私の心はつきりつかめないで迷ってゐるのだろう。

了いにこんな面倒臭い女なんかあきらめて了えばよいのに。と思う。

父、母の事、又あの小母さんの事など考えると頭が痛くなりそうだ。

九時も過ぎて段々おそくなる。

一旦別れて又追っ馳けて了った私の弱い心、私も只の女か、情ないなあ、予じゅんしてる。

さよなら――

オフで荷物を整理し始めたら平原さんが面会、そうだ金曜に来ると云ったんだっけ。オーバーを引っかけて小雨なので傘をさして二人で外に出る。

昨日貰ったお金で税金を拂おうと持って出たがおっくうになった。

焼芋あるだけ買って仕様がなから分婉室を借りてお茶を飲む。

色々話して芝居の話になる。

故名優の舞台を見た彼女が羨ましい。

芋がなくなりお茶もなくなる頃話も少なくなつて十二時過彼女を送つて出る。

傘は要らないとさよならと馳けて行つて了った。ぼんやり見送つて部屋へ歸る。

2月11日 日曜日

昔なら紀元節。

朝飯済んで保ちゃんと母と三人で父一人おいて日本橋え。母と白木屋に入る。何か期待して、母に買って上げようか、おごろうかと思ってるが、母は、私に似合いそうな、手も出ない高い、スーツだの、安い銘仙をいぢってみる丈で、只お使い物を見るの一杯。八百三十円のトリコットケープ、用が済むとさっさと下に降りて、私に見送られ直ぐ電車に乗って了った。何だか呆気ない。

ホッとしたようなつまらないような。千円残った財布をどうしよう。

晝過病院に歸って来て了った。

何処かえ出掛けたくて、日のある一日をつまらなく過ごすのがいやだったが、山口さんに映画誘はれても行く気にならず、炬燵で無為に過ごした。

立花さん歸って来て機嫌うるわし。

お土産はおいしかった。

今夜から準夜也

朝退けて来る時ちらちらし始めたが午后になって本格的に降り出した。

横になった儘窓越しに外を見ると、積り始めた瓦の屋根ひさしに、雀が二三羽止まってる。

中庭に飛び降りた。

平和な日本に眺められる美しい景色だ。いつ迄も日が暮れないで此の儘だといゝ、暗くなると雀も影をかくすだろう。

所が思いがけなく夕方から風が出て来て吹雪になった。つもることつもること。

今夜の勤務が案じられる。

明日の観劇の用意は沼館さんと二人です。今夜こそは入浴と、ひゝと(\*霏々と)降る雪の中を手を眞赤にして飛んで行く。珍らしく九時だというのに長島の小父さんがおとなしく入れてくれた。お風呂で足達さんが、一石さんが止めるのもかまわず少しやらしい歌を恥かし気もなく歌って一人でとう酔してゐる。いやな女という感じだ。不潔なものを見るような気がして早く出ればよいのにと思った。

十時近く、小使室で八千代さんに煮た皮のついた儘のさつま芋を御馳走になって歸る。

二時頃島野さん歸る。

上田氏心配で皆歸った后始終見に行く。停電はするし、あの廊下のドアがこわれて、そこから雪や風が吹き込み、廊下に迄雪が積って、はき寄せたり、注射したり、アップの人がビービーベルを鳴らして泣き出したくなる。こんな事始めてだ。

夜が明けるのが待遠しい。風は少し治まったと思うと又ひどい吹雪になって心配は重なる一方。明日のお弁当の用意どころぢやない。でもお腹が痛いというのに沼館さんはよくやってくれた。

2月15日 木曜日

夜が明けて一安心。

案の定出勤した立花さんの不機嫌な事、又おまけに調理（\*室）で食事の用意仲々出来ないで、廊下は雪で立花さんも大変だが皆も大変だ。

吉田さんはい、時に休暇を貰った。

彼女は自まんするだろう、先見の明ありと。

雪の止んで陽が淡くさしかけた中を新病院へ行ったり、雪を踏み分けて出勤する人達、雪合戦を真似してる病院の人達を見乍ら、今日の歌舞伎座はどうなるだろうと心配だ。電話をかける事にする。

病院へ行っても出勤してる人は少なく、省線 都電も不通で不安だ。

月にむら雲、花には嵐である。

それでも沼館さん一人で大変そうにお弁当作り、私は疲れて晝過迄寝て了った。

陽がさして解け始めた雪の中を小泉さんと四人で出掛ける。夜の部でよかった。でも思いが叶って嬉しい。

暫く外側を眺め、第一書店で本見たりして中に入る。百円のソックスなど心配して買わなくともよかったのに赤いじゅうたんの上を雨靴で遠慮しいしいずかずか上る。

とても坐り心地、見心地よし。

場内の廊下の素晴らしさ、賣店の気の利いた作りには感心した。

東劇ぐらの廣さかしら、升の席はきらを飾る人達で美しい。

賣店にあったあの風呂敷が買ったんだけど。

最初的一幕を除いてはみんな好かった。歸りは田宮さんと二人で後になってしまった。二人にはぐれて、又本屋へ寄って買物してゆっくり歸って来た。

沼館さんに悪かった。併し星の出た晴れた夜空の下の雪の道を歩いて来たのもおもむきあって楽しかった。

あのおまわりさんと。

甲種看護婦の講習の話あり、田宮さんと話す。

晝は疲れて寝て了いどこえも行かなかった。

今夜は、明方迄小川銀蔵氏看護婦室に居て、面白いが困って了った。

私のこっけいな事、全くあれには閉口した。自分迄馬鹿になりそうだった。

あっちの部屋、此方の人に話して大笑いした。田宮さんも心配してた。

退けて山口さんとこえもぐる。

デパートへ行行って出掛ける筈がとうとう眠い儘に、夕方レスタミンを打って、又風呂にも行かず十一時過迄寝て了った。

丹羽さんに手紙貰った。

2月17日 土曜日

明方迄無事、何もなかった。久し振りでゆっくり出来るので落着いて日記つける。  
小川氏も騒がず最期の深夜も寝ずじまい。  
高野さんに村井さんが、私の事を何か恨みがあるのだろうと云ったとか。  
今夜は銀蔵氏もおとなしく、又私は眠気も出ないで、日曜が楽しみでもあり、又居眠りなどして見逃す場面がありやあしないかと思まらない心配などする。夜蒸気（\*ボイラー室）の高橋さん廻ってくる。

退けて来て眠い。眠い乍らも起き出して田宮さんを誘う。

何も知らない岩渕さん達にどうしよう。

馳け乍らやっと思に合う。

汗の出そうな場内。

歌舞伎座に比べて此処はまあ何て涙を誘うものばかりなんだろう。

第一に 大石最後の一日。

今の私には教えられる所が多い。

一寸何かの時出来そうな歌暦。

でも、むづかしいなあー。

そこはかとなくたゞよう哀愁。

梅の気品高き香りにも似た、大石、乙女田みの・・・の人々・・・

河庄は寿三郎と鴈治郎が良かった。上方らしい鴈治郎の優しき、

夜の酒屋のお園は声が惜しい。

矢張り細い線で、やんわりとした味だ。豊田屋、成駒屋天皇寺屋、友右衛門と又五郎の元  
気な踊。

雪解けの危い夜道を夢中で二人で話し乍ら歩く。

小万、源吾兵衛、かごつるべに似てゐる。本当にこつてりした味の濃い芝居、最後の五分  
間の素晴らしき、困った。部屋に歸ってもかくして居られそうもない。又コーフンして喋  
って了いそいだ。

先週から気に掛けてみて、眠くてとうとう行かれなかった。今日は松坂屋休みで駄目。  
酒井さんや立花さんに又ベラベラやり出したが、途中で止めた。

三時半に退けて立花さんと松坂屋え。

帯びか何か買ったらしい。敷布矢張り7.50<sup>0</sup>の買ってチョコレート、一金百円也。  
血液分の多いもの、水飴よりもよし。

2月20日 火曜日

2月18日 日曜日

2月21日 水曜日

田宮さんはハルンの結果を葉書で出したかしら。  
奨励金が三百円弱出て外出する。  
今日程、何だか嬉しくなって、おかしくなって心温まる思いをした事はない。  
今夜の受付に居た当直者は誰だろう。困って了った。  
顔からスーッと血の気が引いていくような思いがした。こそっと歸る。  
新聞に來月の歌舞伎座が出ていた。

2月23日 金曜日

広瀬さんとオフの時間を代って貰って、十一時にもならない内退けて銀座のプレイガイド  
え、歌舞伎座即日と、川本さんの明治座、佐々木女史の音楽会の切符買いに行く。  
失望——歌舞伎座——嬉——心配——失望——歌舞伎座↓又プレイガイド、さんざんさんざん  
往復して得たものは……  
満足ではないが仕方がない。迷い易い心。必要以上考えて結局同じ事になって了う。綿靴  
下に乗履の軽出てたちで銀座え出られるのも、道が悪いから、まだ日の当らない道の片  
隅には汚なくなった残雪がある。  
歸ると待っていた、小泉さん、沼館さん、田宮さんも来て、他の人が見たらおかしい位、  
さわいで、きめるのが中々閑かゝる。立花さんにあまりしつこく話しそうになって止めた。  
銀造氏がずる分あばれたとか。  
ひけてすぐ田宮さんもとこえもぐる。

2月25日 日曜日

日勤也。腰を下ろす閑もない。佐藤氏中々さめなくて一人で泣けて来て仕様がなかった。  
退けて事ムの菅谷さんのオーバー借りて焼芋、黄色くておいしかった。山口さんは準夜。  
今夜は自分の処に歸って寝る。伊藤さんと。

永谷さん退院、優しいおぢさんさよなら。  
広瀬さんも私も一時過迄居て了った。  
后藤のおサツさんも。  
五時頃から洗濯物（寝具）を山とかゝえて田宮さんとお風呂に行く。  
今日は曇、明日は雨になるとか。

2月26日 月曜日

土曜日貴方の為に泣いた私なのに。  
佐藤氏退院。面白い人だったが・・・  
看護学と、奥様の手帖を抱えて、廊下を歩く。希望とユーウツと不安。  
職業と家庭の岐路に立った感じがしないでもない。  
オフの時間には真先に、広瀬さんの分も税金拂いに行つて来てホツとする。  
岩瀬さんとお風呂の歸り一病に寄つたら大島インターン生が居て珍らしく口を聞いた。

2月27日 火曜日

水色レインコート買う。  
立花さんがやめるといふ事は大っぴらになつた。悲喜交々の気持であらう。  
つまらない。淋しい。よくな祝福して上げたいようなやるせない気持。  
せめて歌舞伎座の一等席に案内したかったが、日時とコストが許さず。  
でも何かしなくては。金原先生に貰つたので昨晚広瀬さんと「鉄の爪」を見に行つた彼女。  
夜は五時より「青い山脈」、佐々木さんと大騒ぎして、満員盛況の「青い山脈」とマンガをみに行く。  
田宮さんと入浴、宮田さんと木持さんと。  
オフに逆井さんと松坂屋に行つてさんざん迷つてシミーズの布2ヤード買う。

インターン生お別れに来た。  
今日は一時よりオフ取る。五時半退け、風邪ひいた様なので入浴せず。  
日誌をつけ出して、伊藤さんに雨の中を中華そば買って来て貰つて、食べる。  
食べたいと思つた時に食べた故かとても美味しい。立花さん当直でおせい。  
此の頃又右が時々痛むような気がしてゾーッとす。顔から血の気がひいて、今考えてゐる楽しい事も嬉しい事も皆おそろしさに變つて了う。私は矢っ張りだめなんだ。目を瞑つても中々寝つかれない。